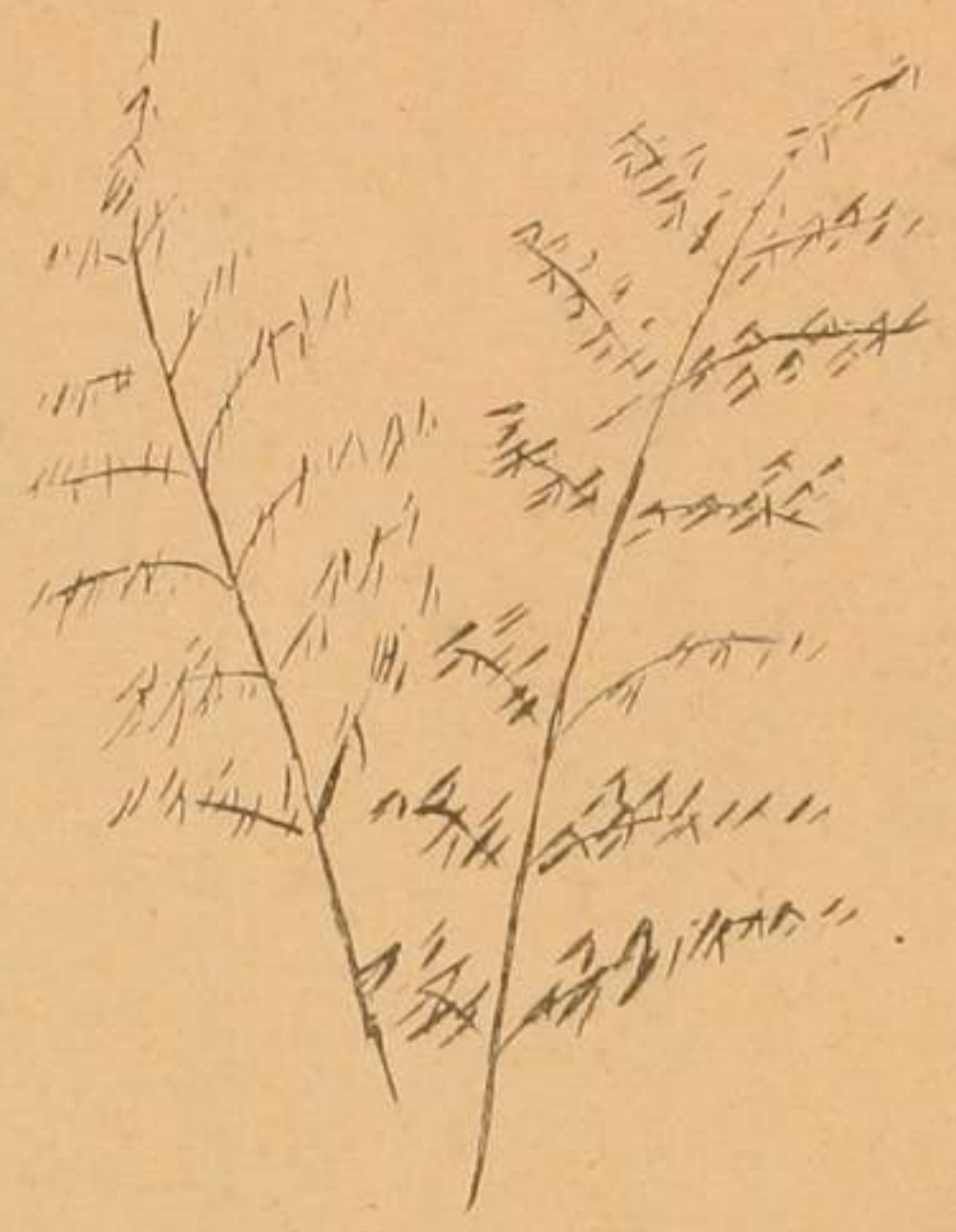


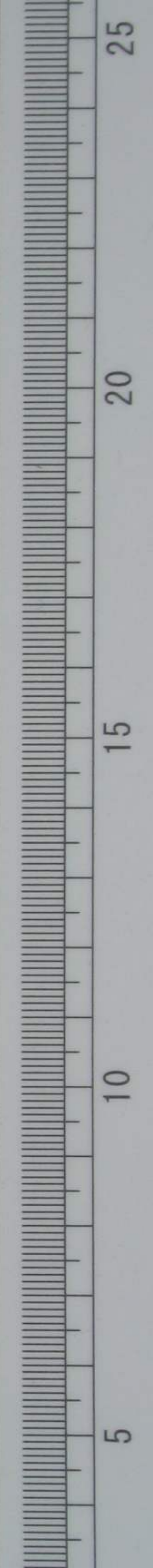


# 旅 陽 蕨

章短體器民



ト、レフンパ 秋 白  
5  
スルア 座 銀 京 東





白秋パンフレット

- 第一輯 短唱 月光微韻 既刊  
第二輯 短章 落葉松 既刊  
第三輯 短章 初冬の星 既刊  
第四輯 詩集 動き来るもの 十月刊  
第五輯 民謡體  
短章 薄陽の旅 十月刊  
第六輯 小唄 雀の頭巾 十月刊

定價各冊參拾錢 送料貳錢

白秋パンフレットの言葉

この白秋パンフレットはわたくし自身の詩歌、小品、評論、隨筆等、その種類の何たるを問はず、成るに従て隨時一々の小冊子として刊行するものである。たとへば一莖の甘藍若くは一顧の林檎のごとく、新鮮に、而かも最も簡易に衆人の眼に觸れ手に觸れ心に觸れむことを希ふものである、わたくしは貧しかつた。それ故にかうした値廉きこの種の刊行はかねての本願であつた。で、わたくしは同時に童謡或は民謡の普及版をも順次に公刊する。ただ此のパンフレットは如上の二種の歌謡を除き、その他の創作、中にも主として新作を旨とするつもりである。なほ、未刊の舊作、或は既刊の物でも極めて特殊な作品として分冊の必要がある場合には、稀には輯録することもあるだらうと思ふ。而して世の富者には一方思ひきり贅を凝らした高價の珍蔵書として類別蒐集したい微笑をも許してほしく思ふ。

大正十一年夏

北原 白秋

薄陽の旅

民謡體短章

北原 白秋 著

白秋パンフレット第五輯

小序

冬の薄陽に旅ゆく者の心ほそさよ。かの野山の木萱のそよぎを  
身にしめて、おのづと成りしこれらの詩は、いささか民謡の風情  
を帯びたれども、こは民謡のそれと云ふにもあらず、ただわが心  
を野山の言葉に移して、ひとり密かに旅のといきを洩らしたるの  
み。心はわがひとり心なり歌俳諧の心なり。

蒲の穂やたまさか遠き薄日射

白  
秋



薄陽、桑畑、  
何處まで行くぞ、  
冬はからから  
空ぐるま。

桑の中道

果なき野道、

桑の根ばかり

見りや泣ける。

桑の枯葉が  
また音立てる、

遠い薄陽が  
また明る。

未だ刈らぬに  
すがれ穂、晩稻、  
風は北風、  
破れ案山子。

咲かずじまひか、  
早や枯れ枯れか、  
いつも薄陽の  
小豆菊。



土手のさいかち  
寒か、風か、  
飛べよ、薄陽の  
みそさざい。

竹と棕櫚とは  
わびしいものよ。

柿ののこり陽  
ただ赤い。

蛸拾場の  
裏溝づたひ、  
何處へ行きましょ。  
陽が低い。

12

崖の釣橋、  
河原の薄陽、  
風の枯桑  
見りや遠い。

11

10

冬の穢多村  
枯桑ばかり。  
背戸に薄陽の  
斑ばかり。

遠い山脈

早や雪つけた。

霜の枯桑、

陽も落ちた。

雲の影見て

夕汽車待てば、

何處か寒かせ、  
旅のかせ。

寒さむざむ、

端山の薄陽、

北の小驛の

宵燈。

桑の畑に  
お月さま紅い、  
なまじ、在所の  
遠狭霧。

笹の葉明り

上州富岡某氏別荘

;

よそのお庭の  
笹の葉明り、  
まだも、ちらちら  
身に添はぬ。

2

馴れぬお庭の  
笹の葉明り、  
何かかげれど、身に染まぬ。

3

旅の日暮ひぐさは

ひもじいものよ。

笹の葉すれも、よその笹。

4

寂しがりましたよ、  
笹の葉明り、  
馴れぬほどこそ、身も憂うれけれ。

時雨日和

磯部行

1

時雨日和か  
狭霧がかかる  
溪の鉾杉

薄紅葉。

2

一の宮かよ、  
権現さまか、  
時雨日和の  
片陽射し。

3

人も通らね、  
もみちの深さ、  
たまにはらはら、  
舞ふばかり。

4

紅葉はらはら、  
山かげ、日かげ、  
何の鳥かよ、  
きよきよと啼く。

5

水の音聴きや、  
わびしうて、寒むて、

紅葉照る坂、  
またのぼる。

6

誰か通るか、  
向ふの山に  
こなた行く影  
また映る。

7

時雨日和の  
山の端もみち、  
旅は道づれ、  
笠ふたつ。

8



磯部、湯どころ、  
紅葉の雨に  
日がな日ねもす  
湯のけぶり。

9

誰かゝるやるか、  
唐黍がらか、

背戸にからから、  
冬のかせ。

10

風のさいかち、  
半は枯れて、  
茨が鳴ります、  
日の暮は。

千曲川ちまがはかよ、  
小諸こもろの城しろか  
松まつに松風まつかぜ、  
旗はたすすぎ。

1

小諸

11

ふくら雀よ  
ふくれてくれな、  
どうせ時雨しぐれれりや  
冬の雨。

2

城しろの日ひ蔭かげの  
唐たう黍き風かぜが、  
紅あかい垂た毛りげを  
また見みせる。

3

4

火ひの見し櫓やぐらに  
夕ゆふ陽ひが焼やけて、  
小こ諸もろわびしや、  
黍きのかせ。

笛ふえや、喇ら叭ぱで、  
曲ちやうりや馬ばの燈あかり。

城へ這入れば、  
松の風。

5

城の松風  
夜は夜で濕る。  
一人旅なりや  
氣も滅入る。

6

黍の赤い毛を  
見ながら食べて、  
旅の朝飯、  
朝とろろ。

發行所

東京  
銀座  
尾張橋區

會  
館  
ア  
ル  
ス

電話  
振替  
東京  
銀座  
二四  
八八  
八番

有 所 權 版

刷印日七月十年一十正大  
行發日十月十年一十正大

秋 白 原 北 者 作 著

者 表 代 ス ル ア 社 會 資 合  
雄 鐵 原 北 者 行 發  
號 五 地 新 町 須 尾 區 橋 京 市 京 東

郎 太 源 本 山 者 刷 印  
地 番 五 十 四 町 堅 久 區 川 石 小 市 京 東

子 金 本 國

薄  
陽  
の  
旅

定 價 參 拾 錢

白 秋 童 謠

北原白秋氏著

菊 版  
二度刷美本  
定價各册參拾五錢  
送料各册二錢

第一輯	螢	小杉未醒氏畫
第二輯	夢のこ	前川千帆氏畫
第三輯	こんこん小山	小杉未醒氏畫
第四輯	お祭のころ	木村莊八氏畫
第五輯	お月夜のうた	森田恒友氏畫
第六輯	ねんねのお鳩	木村莊八氏畫

アルス詩歌集

	定價	送料
北原白秋氏著 詩集 觀相の秋	1.80	.17
北原白秋氏著 白秋詩集第一卷	2.80	.17
北原白秋氏著 白秋詩集第二卷	2.80	.17
北原白秋氏著 抒情詩 わすれなぐさ	1.80	.13
北原白秋氏著 白秋小唄集	1.80	.13
北原白秋氏著 民謡集日本の笛	2.80	.18
蒲原有明氏著 有明詩集	3.50	.23
三木露風氏著 象徴詩集	2.80	.18
三木露風氏著 抒情詩 生と戀	1.80	.13
室生犀星氏著 室生犀星詩選	2.20	.17
日夏耿之介氏著 詩集 黒衣聖母	2.50	.17
日夏耿之介氏著 詩集 轉身の頌	2.50	.7
萩原朔太郎氏著 詩集 月に吠える	2.50	.17
北原白秋氏編 第二木馬集	1.80	.15